

壬申の乱ゆかりの地Ⅱ ～宇陀・阿騎野～



写真：復元された中之庄遺跡（阿蘇野・人麻呂公園） 宇陀市教育委員会

壬申の乱と阿騎野

「東の野に炎の立つ見えてかえり見すれば月傾きぬ」『萬葉集』卷1-48)

柿本人麻呂が詠んだ大変有名なこの歌は、持統6年(692)年11月に草壁皇子の子である恵皇子(のちの文武天皇)が阿騎野で獵りをした際に同行して詠んだ歌の一首です。

なぜ、この場所が選ばれたのでしょうか。

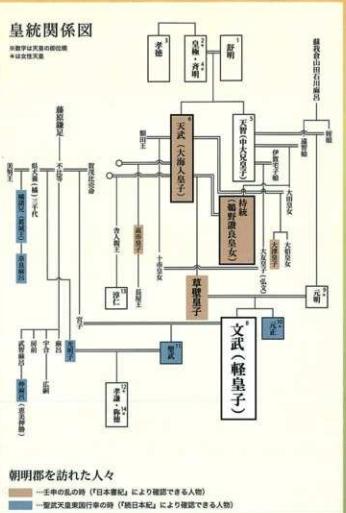
時は大海人皇子と大友皇子が皇位継承をかけて争った壬申の乱に遡ります。『日本書紀』によると、天武天皇元(672)年6月24日、吉野宮を発つた大海人皇子の一行は、阿騎野の中心部である菟田吾城に到着したところで、初めて食事を取ることになります。食事を提供したのは、屯田司舎人土師連馬手でした。

その後、更に歩みを進め、菟田郡家では湯沐(所領)の米を運ぶ伊勢国の荷駄50匹に遭遇したので、米を捨てさせ一行は馬に乗り、伊賀を経て鈴鹿を越えて、ようやく朝明郡に至り、速太川で天照大神を望拝します。朝明郡に入ると、大津皇子が合流し不破を固めしたことなどの吉報が入ったことを受け、朝明郡家では各地で兵をおこさせます。この時、派遣されたうちの一人が、菟田吾城で食事を提供した屯田司舎人土師連馬手でした。

吉野を出発して、初めて食事を提供された場所である菟田吾城の主要施設が、宇陀市中之庄遺跡と考えられています。



中之庄遺跡全景（南上空から） 宇陀市教育委員会



菟田吾城と中之庄遺跡

中之庄遺跡は、奈良県宇陀市大宇陀に所在する飛鳥時代（7世紀後葉～末）の遺跡です。掘立柱建物11棟、堅穴住居3棟、石敷きの溝や池などから構成される苑池状構造が発見されています。宮廷的な施設であった可能性が指摘されており、阿騎野の中心部分である菟田吾城の主要施設と考えられています。



文祢麻呂墓の発掘調査 奈良県立橿原考古学研究所



文祢麻呂墓 奈良県立橿原考古学研究所

壬申年將軍左衛士府督正四位上文祢麻
忌十二慶雲四年歲次丁未九月廿一日卒

文祢麻呂墓 墓誌（レプリカ）
宇陀市教育委員会



文祢麻呂墓 銅箱（レプリカ）
宇陀市教育委員会



文祢麻呂墓 金銅製外容器・ガラス製骨蔵器（レプリカ）
宇陀市教育委員会



文祢麻呂墓 ガラス製骨蔵器（レプリカ）
宇陀市教育委員会

阿騎野と行幸

壬申の乱の戦いに勝利した大海人皇子は、翌天武2（673）年、天武天皇として飛鳥淨御原宮で即位し、律令による中央集権国家の建設を目指します。その後、天武9（680）年3月には、菟田吾城に行幸しています。この時には、草壁皇子も同行していましたことが柿本人麻呂の歌から知られており、前年の5月に吉野での草壁皇子を皇嗣として相争わないことを誓わせた「吉野の盟約」と並び、壬申の乱のゆかりの地に行幸したことが分かります。

更に、持統6（692）年には、輕皇子（後の文武天皇）が菟田吾城で遊獵しています。輕皇子は壬申の乱の際に同じ年ごろで従軍した父の草壁皇子を偲んで、この阿騎野を訪れたと考えられています。この際に詠まれた歌が冒頭の歌であり、阿騎野は天皇や皇族が繰り返し行幸を重ねた政治的・軍事的に重要な場所でした。

阿騎野と薬狩り

『日本書紀』によれば、推古19（611）年5月5日に菟田野で初めて薬狩りを行ったことが知られます。菟田野は宇陀野（宇陀の大野）であり、阿騎野のことを指すと考えられています。薬狩りは5月5日に行われた宫廷行事であり、男性は薬効の大きい鹿の角をとり、女性は薬草を摘んだとされます。

宇陀は『萬葉集』に「宇陀の真赤土」と詠われているように水銀（辰砂）の産出地として知られていました。その開発は古く3～4世紀には古墳で多量に消費される水銀朱の精製が宇陀市戸石・辰巳前遺跡で行われていたことから、初期ヤマト王権と密接に関わってきた土地であることが指摘されています。

水銀は不老不死の仙薬と認識されていましたが、猛毒であるため直接は体内に摂取できませんので、水銀を産出する地で取れるものを間接的に取り込むことにより靈力が宿ると考えられていました。

だからこそ、神仙思想の観念から古来より、宇陀・阿騎野の地は政治的・軍事的に重要な場所と認識されていたのです。



戸石・辰巳前遺跡水銀朱付着資料
所蔵 奈良県立橿原考古学研究所
写真提供 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館

久留倍官衙遺跡公園 平成31(2019)年度 くるべ古代歴史館春季企画展

壬申の乱ゆかりの地II

～宇陀・阿騎野～

会期 平成31(2019)年4月17日(水)
～令和元年(2019)年6月9日(日)

企画 四日市市教育委員会 社会教育・文化財課
発行 平成31(2019)年4月17日